温故知新 北海道大学

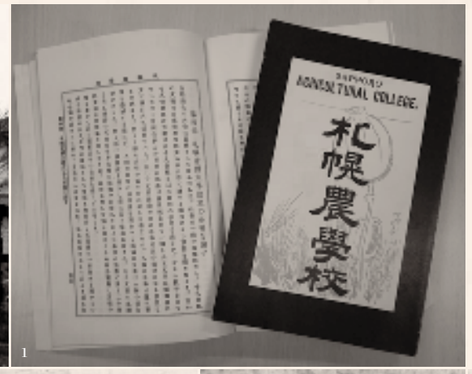
挑戦の140年

SCENE-10

1895-1907

「札幌農学校創立25年」

2



1

6

7

8

5

4

3

9

10

1. 札幌農学校学芸会編『札幌農学校』(1898年、大学文書館蔵)
2. 凱旋門を模した大緑門(1901年、大学文書館蔵)
3. 星野勇三(1899年、大学文書館蔵)
4. 創立25年紀念会開催当日の集合写真(1901年、大学文書館蔵)
5. 本科4年生の燕尾服・シルクハット姿(1901年、大学文書館蔵)
   2列目右から2番目が星野勇三、3列目左から4番目が有島武郎
6. 演武場2階の紀念会・祝賀会の会場(1901年、大学文書館蔵)
7. 創立25年記念の遊戯会(1901年、大学文書館蔵)
8. 演武場のイルミネーション(1901年、大学文書館蔵)
9. 有島武郎(1901年、大学文書館蔵)
   真ん中が有島武郎、左右は同期の森本厚吉、森廣
10. 『創立廿五年紀念祝賀会報告』(1901年、大学文書館蔵)

札幌帝国大学設立の必要を論ず

一八九八年六月、札幌農学校学芸会が学校案内誌『札幌農学校』を刊行した。学芸会は文芸活動を主体とした札幌農学校の校友会で、『札幌農学校』の編纂には本科生が当たった。目的は札幌農学校進学希望者への学校の案内、世間一般への紹介であった。内容は、札幌の勉学上の環境を説明した「札幌と学問」、札幌農学校の沿革を記した「札幌農学校の過去」、現在の教職員・カリキュラム・施設・学費等を説明した「札幌農学校の現今」、そして、「札幌帝国大学設立の必要を論ず」である。前年の一八九七年六月、文部省は東京帝国大学に次ぐ二番目の大学として京都帝国大学を設置した。大学同等の学問の府を自認してきた札幌農学校においては、この動きが大いに刺激になっていた。この後、大学への昇格運動は、札幌区、北海道庁といった地域と連動して進んでいく。

この時期、札幌農学校は様々な面で転期を迎えつつあった。一八九五年に札幌農学校は北海道庁の管轄から文部省直轄学校となり、それに伴う組織・課程の改正があった。学校の資産として広大な土地の下付・移管を受け、後に農場・演習林へと位置付いていく。一八九八年には佐藤昌介校長が「札幌農学校拡張意見書」を文部大臣に提出した。同時に、新キャンパスへの移転が決定した。そして、一九〇一年、札幌農学校は開校の一八七六年から二十五年目を迎え、改めて学校の存在を振り返る機会を得ることとなった。

創立二十五年

札幌農学校は一九〇一年五月十四日、創立二十五年紀念会・祝賀会を学校を上げ、地域も巻き込んで開催した。招待状を送った来賓は、卒業生・北海道関係・高等教育関係・農業関係から大臣・議員などに及んでいる。札幌農学校正門には凱旋門を模した大緑門を作り、上部には星の周りに稲穂をあしらった校章風装飾を作り込んだ。会場となった演武場(現在の札幌市時計台)の入口にも緑門を施し、建物正面には粟の実と黒大豆で書した「祝創立二十五年」の大額を掲示した。式場のホールには開校時の教頭W・S・クラークと開拓使長官黒田清隆の肖像、そして"BOYS BE AMBITIOUS"の大文字を掲げた。紀念会で登壇した佐藤昌介校長は、開校以来の学校の沿革を辿った後、「本校ノ特色ハ学徳並進ノ大主義ヲ一貫スルニアリテ、益奮励、学校ノ発達ヲ謀リ、社会ヲ益センコトヲ望ム」と説いた。

校歌「永遠の幸」の誕生

紀念会に続く祝賀会は学生が中心となって準備を進めた。祝賀会ではオルガン伴奏に合わせて学生たちが新作の「校歌」を披露した。当時、札幌農学校本科四年生に在学していた有島武郎の作詩になる「永遠の幸」である。三週間程前の四月二十一日の有島の日記には「此夜ハ二十五年紀年祭ノ歌ヲ造ラザル可ラザルガ故ニ、我ハ恐クハ又全宵ヲ徹セザル可ラザラン」と、徹夜を覚悟で作詩に当たる様子を記している。「友たれ永く友たれ」という「永遠の幸」の歌詞に呼応するように、この時期の有島の日記には、「友情ノ如何ニ尊ム可キモノナルカヲ云ヒ、此数人ノ交誼ガ永ク地上天上ニ結ハレンコトヲ乞ヒタリ」、「朋友ノ交リハ、実ニ地上ニ咲ケル愛ノ花ノ中、最美シキモノナリ」といった友人たちを慈しむ表現が躍っている。卒業を間近に控え、学生生活の名残を惜しむ心情であったのかも知れない。

そんな有島の親しい友人のひとり、同期の星野勇三が創立二十五年紀念祝賀会について、後年、詳しく回想している。演武場建物への電飾(イルミネーション)は札幌で初めての試みであった。土木学科の学生たちが丸太を使用した巨大なテントを張り、出席者を饗応する宴会場を設営した。午後には遊戯会(運動会)を開催し見物客で賑わった。夜に行なった提灯行列に、星野、有島等の最上級生は揃いの赤い燕尾服にシルクハット姿で参加したが、燕尾服は安価な布製で、シルクハットはボール紙に黒布を張ったものだったという。

周年事業は自己点検・評価

創立二十五年の記念事業は、転期を迎えた当時の札幌農学校の矜持を示している。この六年後の一九〇七年、札幌農学校は東北帝国大学農科大学として帝国大学に昇格する。

北海道大学はこの後、創基五十年、八十年、九十年、百年、百二十年、百二十五年と、節目ごとに様々な記念事業(大学史編纂、展示、講演会、式典、記念館建設等)を行なってきた。周年事業の内容はその時々の大学の「今」を示している。ある大学史研究者は、大学の歴史を振り返る周年事業は自己点検・評価そのものだとも述べている。

七年後の二〇二六年、北海道大学は創基百五十年を迎える。北海道大学の現在地を今一度見つめ直す好機が訪れようとしている。

「札幌農学校創立25年」

「本校ノ特色ハ学徳並進ノ大主義ヲ一貫スルニアリテ益奮励学校ノ発達ヲ謀リ社会ヲ益センコトヲ望ム」

「永遠の幸　朽ちざる誉　つねに我等がうへにあれ　よるひる育て　あけくれ教へ　人となしし我庭に」

Hokkaido University HISTORY 1895-1907

1895年	3月	北海道庁から官有地の下付を受ける(後の農場)
	4月	札幌農学校が文部省直轄学校となる
	9月	同窓会所有の土地を札幌農学校に移管(後の農場)
1898年	1月	佐藤昌介校長が文部大臣に「札幌農学校拡張意見書」を提出
	6月	学芸会が『札幌農学校』を刊行
1899年	2月	キャンパス移転が決まる
	6月	新キャンパスで校舎新築工事を開始
1901年	3月	北海道庁から札幌農学校維持資金として森林を取得(後の演習林)
	5月	創立25年紀念会・祝賀会を開催
1903年	7月	新校舎落成、新キャンパスに移転
1907年	9月	札幌農学校が東北帝国大学農科大学に昇格

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。